

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス なないろ			
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～	令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児童発達支援 20名	(回答者数)	児童発達支援 14名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～	令和8年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間で日々の情報共有を行い、子ども一人ひとりの特性や状況を把握した上で支援を行える体制が整っています。 ミーティングや振り返りを通して支援内容を共有することで、職員間の認識が統一され、継続性のある支援につながっています。	・ミーティングや日々の情報共有を通して、子どもの様子や課題を職員間で共有しています。 ・支援内容の統一を図り、支援方針や対応方法の共通理解に努めています。	今後も職員間での情報共有を継続し、支援内容の振り返りや見直しを行うことで、支援の質の向上に努めてまいります。
2	子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別支援を大切にしながら、個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っています。活動プログラムについても固定化しないよう工夫し、子どもが楽しみながら成長できる環境づくりを行っています。	・季節の行事やレクリエーション活動の実施を行っています。 ・個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っています。 ・子どもの興味や特性に応じた活動内容の工夫を行っています。	子どもの興味や発達段階に合わせて活動内容を見直し、多様な体験を通して子どもの成長につながる支援を行ってまいります。
3	保護者との連携を大切に、送迎時のやり取りや連絡ツールを通して日々の様子を共有することで、家庭と事業所が協力して子どもの成長を支える体制づくりを行っています。	・送迎時の情報共有。 ・連絡ツールを活用した活動報告を行っています。 ・保護者からの相談内容の職員間共有に努めています。	保護者との情報共有を継続し、家庭と事業所が同じ方向で支援を行えるよう、連携を図ってまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流や家族支援の機会が少ない。	日々の支援業務を中心に取り組んでいるため、保護者交流の機会を設けることが難しい状況があります。	保護者交流の機会や情報共有の場について、希望やニーズを踏まえながら検討していきます。
2	地域との交流機会が少ない。	地域との交流活動について十分な機会を設けることが難しく、地域との関係づくりがまだ十分ではない状況があります。	地域行事や地域施設との交流機会を検討しながら、地域との関わりを広げてまいります。
3	SNSや広報による情報発信が十分ではない。	日々の支援業務を優先しているため、情報発信の機会が限られている状況があります。	SNSなどを活用し、事業所の活動内容を保護者や地域に分かりやすく発信していきます。